

## 事例紹介 農業農村資源保全管理事業(県単独事業)の活用によるキャベツ振興

「(農)芸北おおさ」では、昭和50年代初めにほ場整備した水田を傾斜畑に転換したり、排水路や暗渠排水を施工し畑地化を進めています。排水機能も向上し、新たに生まれ変わった畑で、集落法人がキャベツ栽培に取り組んでいます。

### 【事業地区の概要】

- ◆事業目的:キャベツ栽培のための汎用農地の機能強化
- ◆集落法人:(農)芸北おおさ(構成員44名,経営規模28ha)
- ◆基盤整備:団体営ほ場整備事業(S49~S58)
- ◆事業内容:集落保全管理計画策定  
整地工事(傾斜畑地化),暗渠排水工事,進入路工事など
- ◆受益面積:A=2.1ha

### 【集落保全管理計画策定】

- ①集落法人の農地,道水路などの状況を点検。
- ②今後の改良・補修の必要性,実施方法などを検討。
- ③農地機能強化,道水路等の長寿命化に必要な工事を実施。

### 【実施した工事】

- ◆水田の畑地化(傾斜畑・暗渠排水)およびほ場の大区画化
- ◆ほ場の連坦化

### ほ場の連坦化



### 畑地化農地でのキャベツ栽培



## 事例紹介 ほ場整備工事実施時に集中的に暗渠排水を実施しアスパラを作付

「(農)聖の郷かわしり」では、平成17年度から22年度にかけて、ほ場整備を実施し、集中的に暗渠排水を施工の上、アスパラに取り組んでいます。

集落法人の経営計画に合わせて戦略的に排水対策を進めたことで、収量と品質は良好で、アスパラは当該集落法人経営の中で重要な作物となっています。

